

○Trauma and Critical Care Unitについて

Trauma and Critical Care Unitは日本ではあまり馴染みがないですが、その名の通り外傷全般を扱う部門です。救急で来た患者さんに対する診療から、入院している重症患者さんの管理、および外来処置まで行います。今回私は5年生の学生たちと一緒に回って見学しました。

○ワークショップ

学生向けのワークショップとしてStop the bleedingとInitial managementの2つを体験しました。Stop the bleedingでは外出血や内出血などの様々な出血を止める方法をシミュレーターを用いて学びました。基本的な1st choiceから、ケースごとの止血方法、止まらない場合次に試すのはどの止血法か、などといった止血法全般を体系的に学ぶことができました。また、シミュレーターおよび現場で実際に使われている器具を使って一人一人練習し、とても実践的な学びを得ることができました。

Initial managementは外傷患者が救急でやってきた場合のPrimary surveyをシミュレーターを用いて実践してみるというものでした。まず症例の設定を読み、外傷部位の写真が提示された状態でスタートし、触診や聴診をすると隣の部屋に控えている先生が所見を述べ、それらに沿って適切なPrimary surveyを行うという練習でした。喉頭鏡や挿管チューブ、骨盤ベルト、輸液などの器具はすべて用意されており、必要な器具を自分で適切に選択する必要がありました。また実臨床のように、バイタルのモニターが音ありで提示されており、目の前に実際に患者さんがいるかのような臨場感がありました。これはOSCEの予行演習だったそうで、先生がガイドラインの項目に沿って学生に細やかなフィードバックを返していました。日本ではここまで本番さながらの練習を学生時代にすることはあまりないと思うので、実践的な練習ですばらしいと感じました。

○外来・手術見学

外来では胃瘻の交換をしにきた患者さんを2人ほど見ました。どちらの方にも学生が交換を行なっていて、フェローの方が横で教えたりサポートしていたりしました。先生は基本的に横から見ていて、手技はできるだけ学生にやらせようとしているのがわかりました。

Trauma Unitは月曜日が手術日で、午前中の中に4名の手術が行われていました。気管切開や内視鏡による胃瘻造設など比較的短時間で済むものがほとんどだったものの、入れ替わりで患者さんが来ててきばきと手術が行われていきました。主に執刀するのはフェローの方がほとんどで、先生は横から見てアドバイスをしたり、一部の学生が術野に入って見学していました。

外来や手術の合間のちょっとした空き時間では、先生が学生や研修医・フェロー相手に症例問題を出していました。初診時の状況・外傷部位の写真、バイタルやPrimary Surveyの結果、画像検査の結果などが順番に提示されていき、問題となる損傷やケアの方法を考えていくという時間でした。先生のiPadにはこういった症例問題がいくつも入っているようで、症例に触れる機会を増やす工夫を見ることができました。

○カンファレンス・回診

Trauma Unitでは週にいくつかのカンファレンスが行われていました。新規の症例を発表するカンファレンスや、論文を発表するもの、他科との合同のカンファレンスもありました。カンファレン

ス自体はタイ語で行われていましたが、スライドは英語表記がほとんどで、医学を英語で扱うことが基本となっていることがわかりました。

Trauma UnitのICUの病室は基本的に個室ではなく、カーテンなどの仕切りもない大きな部屋に6,7人ぐらいが入っていました。回診では発表者がマイクを持ち、スピーカーを通してたくさんの人が聞くことができるようになっていました。たくさんの人が参加できるというメリットがある一方、個人情報という観点では日本では実施できなさそうな回診方法だと思いました。また、カンファレンス・回診ともに若手の先生が発表していることが多かったですが、6年生が発表している場面も多数ありました。日本では学生が症例をカンファレンスで発表することは珍しいと思うので、教育方法の違いを感じました。

○病院・大学全体について

病院及びチェンマイ大学医学部の敷地はとても広く、Googleマップに一つ一つの建物が載っているほどでした。大学関係の建物がたくさんあるのはもちろん、病院もいくつかあり、寮も敷地内にありました。また、食堂や飲食店も多数あり、学生によると毎日ちがう場所でお昼を食べることが可能だそうです。私が見学していた週の初めの3日は、看護学科の建物でマーケットが開かれており、そこでお昼を購入して近くの食堂のテーブルで食べるなど、食べるところには困りませんでした。カフェもたくさんあり、大学内や大学近くでは学生に優しい価格のカフェが多く、お昼と一緒にコーヒーを買って帰る人が多く見られました。

○その他自由時間について

滞在期間を通して、IMSU (International Medical Student Union Club) の人たちには大変お世話になりました。初日は空港まで迎えにきてもらい寮まで案内してもらった上で、そのままお昼に連れて行ってもらったり、次の日は他の日本人留学生やIMSUの人たちも交えて1日チェンマイ観光を企画してくれました。週の途中もまた一緒に夜ご飯に行き、最終日も空港まで送迎して見送ってもらいました。地震が起こったときも気にかけてくれたり、なにかわからないことがあったときに気軽に尋ねることができたので、とてもありがたかったです。IMSUはこういった留学生がきたときに迎えたりお世話をしたりするクラブ団体で、車やレストランの費用は大学から出るそうです。奈良医大でもこのような活動ができれば、もっと国際交流が豊かになりそうだと思います。一緒にTrauma Unitを回った学生にも大変よくしてもらい、タイ人のやさしさを実感した1週間となりました。

○最後に

タイでは医学は基本的に英語で学ぶということで、日本と比べて学生や先生方の英語は流暢でした。また学生の頃から実践的なトレーニングを積んでおり、日本との違いを一番痛感した部分でした。このような経験を踏まえ、これからの自分の学び方を意識して変えていきたいと思います。最後になりましたが、今回の学術交流に対する交通費と激励金のご援助、誠にありがとうございました。今回の経験を何かしらの形で活かすことができるよう、これからも精進して参りたいと思います。